**投稿論文の確認シート**

この確認シートは論文投稿に際し，作成した論文が投稿規定に沿っているか，記述に不備はないか，ご自身で再度確認していただくものです．このシートで不備のある箇所については投稿規定を再読し，修正後に投稿してください．また，確認後のシートも原稿とともに提出してください．下記項目に従っていない場合は、投稿を受領しない場合があります．なお，この内容が投稿規程を網羅しているものではありません．

□1．投稿原稿の内容は他の出版物にすでに発表，あるいは投稿されてない．

□2．著者はすべて本学会員(正会員)である．もしくは、正会員の有資格者に該当しない共同研究者は投稿規定１の手続きを行うことを理解している．

□3．投稿原稿表紙（編集委員会用および査読用）は不備なく記載されている．

□4．投稿原稿は編集委員会用と査読用の2種を作成している.

□5．査読用の投稿原稿は著者名、所属機関名、謝辞など著者が特定される内容は削除されている．

□6．原稿種類は投稿規程の投稿原稿に適した種類を選択している．

□7．選択した原稿の種類別による詳細を確認している.

＜総説・資料の場合＞

　□文字数は16,000字以内．

□本文とは別に，400-600字の和文要旨をつけている．

＜原著の場合＞

　□文字数は16,000字以内．

　□本文とは別に，400～600字程度の和文要旨、300語程度の英文要旨をつけている．

　□5つ以内の日本語および英語のキーワードを投稿原稿表紙に記載している．

　□英文要旨は，英語を母国語とする者もしくは同等の英語力のある者のチェックを受けている．

＜実践報告の場合＞

　□文字数は16,000字以内．

 □本文とは別に，400-600字の和文要旨をつけている．

　□事例報告の対象者から直筆による同意もしくは，対象者が死亡している場合や意思決定能力が低下している場合には，代理人（家族など）から同意を得たことを明記している.

□個人が特定されないように，以下の点を含め配慮した記載になっている．

□氏名，生年月日，住所は記載していない.

□実名や部分表記（山◯太◯など）・イニシャルは使用せず，Aさん／A氏等の表記としている．

□実年齢は記載せず，○歳代前半などと記載している．

□生活史・病歴などの固有名詞はA市，A病院などの記号表記としている．

□所属施設から個人が特定される「当院」などの表現は使用していない．

□経過年は，関わり開始を X 年として，±1年と記載している．

□入院経過・家族構成・職業などは，事例理解に必要な最低限の記述に留めている．

＜その他の場合＞

□文字数は16,000字以内．

 □理事会・編集委員会からの依頼原稿，編集委員会が特別に掲載を認めた委員会報告，認定委員会の推薦を得た慢性腎臓病療養指導看護師（CKDLN，旧透析療法指導看護師）の認定審査時に提出された事例報告である．

□8．倫理的配慮：実施された研究は倫理的配慮に基づいて実施され，その内容は十分に記述されている．

□9．研究助成金を受けている場合にはそれについて記載している。利益相反について記載している．

□10．開発された質問紙などを研究で用いる場合，開発者の許可を得た上で使用し，その旨は本文中に記載している．

□11．投稿原稿はA4版横書き，ページ設定は1行40字，行数40行(全体で16,000字以内)になっている．

□12．図表がある場合は，それぞれ1点を400字に換算し，規定の文字数に収まっている．

□13．外国語の記載方法は投稿規程に準じている．

□14．略語を用いる場合は投稿規程に準じている．

□15．他の文献から図表などを引用する場合は，著作権保護に基づき原出版者および著者の了解を得た上で用い，その旨は記載されている．

□16．文献記載の様式は投稿規程に準じている．

□17．図表がある場合は、投稿規程に準じて作成し、原稿本文右欄外に挿入位置を指定している．

【査読後再出時】

□18. 査読結果通知書にある査読者からのコメントに対しては、1つの査読コメントに対し，投稿者がどのように捉えどのように修正・追記したのかがわかる1対1になるよう回答を示した「査読意見に対する著者意見書（レスポンスシート）」を作成している．

以上